

「インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

文学部1年 (氏名) 白井愛美

1. 学習成果

インドネシアという国に漠然とした興味関心があり、実際どのような場所なのか自分の目で見てみたいという気持ちで応募した。インドネシアの同年代の学生と様々なことを話すことで2週間という短い期間ではあったがその国について少しは理解が深まったように思う。受け入れ先の大学でのインドネシア語の授業では初歩的な文法と会話を勉強し、今後のインドネシア語学習の土台になったと感じる。

2. インドネシアでの経験

自分にとってあまり馴染みのないイスラーム文化圏に滞在したことで、ムスリムの日常生活の一部を見ることが出来た。大学構内や駅、街中にモスクがあり、朝4時半頃にはキャンパス内のモスクからサラートの声が響きわたったことや、インドネシア人学生と出かけたとき途中でモスクに立ち寄ったことなどが印象的だった。

3. プログラム内容

インドネシア大学文学部日本学科の学生とそのOB・OGが中心となって生活をサポートしてくれた。インドネシア語の授業は大学内のゲストハウスから徒歩5分くらいの建物で朝9時から始まる。12:40に授業が終わった後はインドネシアの伝統楽器やバティックの体験をした。文化体験の無い日は夕方から始まるプレゼンテーション準備までは自由時間であったので大学内外で昼食をとり他の学生と出歩くなどした。プレゼンテーションはインドネシア人学生2人と日本人学生2人で1グループとなり毎日集まって最終日での発表に向けて準備した。その準備をする場所には、他の日本学科の学生も集まり交流が盛んであった。プレゼンテーション準備が終わると皆で夕食に出かけたため、ほぼ毎日、一日中インドネシア人学生と他の京大生と過ごした2週間であった。他の学生と一緒に過ごした時間はとても貴重なもので、インドネシア人学生と日本とインドネシアの文学や歴史の話をする事が出来たことはもちろん、一緒に参加した京大生とも各々の関心について話す機会があり刺激を受けた。また、日本語の特別コースを受講している工学部とコンピューターサイエンス学部の学生との交流の機会があり、そこで知り合った学生に学校を案内してもらったり期間限定のブックフェアに連れて行ってもらうたりと思いのほか仲良くなる事が出来た。このように他の学生と関わる機会がたくさん与えられたことでこれからの勉学へのモチベーションになった。

4. 進路への影響について

進路に対する考えはプログラム参加前後で大きく変わったことはないが、インドネシアの文化に対する興味関心はさらに高まった。このプログラムで関わった人との関係を大事にしていきたいと思う。